

10. 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かないところに置きましょう。

子どもは大人のまねをしたがり、大人が物を出し入れするバックが気になります。バックの中には小銭や化粧品、薬など誤飲事故につながる物がたくさん入っていますが、バックの中に入っていれば大丈夫と思って、子どもの側に置いておいたため、バックの中からタバコを出して食べてしまったり、引き出しに入っている薬も取り出して誤飲してしまいます。



お母さんが使う化粧品はこのほか興味・関心があり、洗面台や化粧台の上に無造作において置かないようにしましょう。

医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かないところに置きましょう。

手が届く引き出しや冷蔵庫は開けることができないようにロックをしておきましょう。

11. 子どもが鼻や耳に小物を入れて遊ぶことがないようにしましょう。

子どもはビーズやプラスチックの玉、小さなブロックやお菓子などを面白半分で鼻や耳に詰めて遊ぶことがあります。異物が詰まって取れなくなり、思わぬ事故になることもあるので注意が必要です。特に鼻から入ったものは長時間そのままにしておくとな中の粘膜に炎症を引き起こします。



鼻や耳に小物を入れて遊ぶことがないように注意しましょう。

12. ピーナッツや飴玉などは子どもの手の届かないところに置きましょう。

子どもは何気なく床やテーブルの上に置いてある小物をつまんで口に入れてしまいます。子どもの口の大きさは最大32mmなので、これより小さなものは飲み込めてしまい、おもちゃが口の中にすっぽり入ってしまったら、食べ物が飲み込めないで喉につかえてしまったりします。



子どもの喉はまだ未発達なので、気管に物が入りやすく、ピーナッツや枝豆などの豆類を与えるのは危険です。豆類は赤ちゃんの気管をふさぐ大きさで、誤って気管に入っているのに気がつかないと肺の炎症を起こしてしまいます。

ピーナッツは3歳を過ぎるまでは与えないようにしましょう。

食べ物は硬さや大きさ、口の中に入れる量を考え食べさせましょう。

13. 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用しましょう。

子どもはなかなかじっと座ってられません。チャイルドシートを嫌がって座らないと抱きかかえて乗せてしまいがちになりますが、スピードを出していなくても衝突による力は予想以上に大きく、子どもを死亡させたり、ひどく傷つけてしまいます。

車に乗せる時は年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用しましょう。

購入時には耐久性や安全基準に合格したJISマークや運輸省の認定マークを目安に車種にあったものを選びましょう。



14. ドアを開閉するとき、子どもの手や足の位置を確認しましょう。

子どもの行動範囲が広がると、自動車のドア、エレベーター、車のパワーウィンドウなど、色々な所で手や足をはさむ事故が多くなります。ドアやサッシは人が出入りする度に触れるところであるので、ドアやパワーウィンドウを開閉するときは、手などはさまないように注意しましょう。

ドアを開閉するときは、子どもの手や足がどこにあるかを確認しましょう。



15. 入浴後、浴槽のお湯は抜いておきましょう。

入浴中、子どもを一人にして着替えを取りに行ったり、電話に出たり、お母さんがシャンプーをしている間でも、浴槽をよじ登って溺れたり、浴槽の外にいるからといって安心できません。

浴槽のふたは入浴する直前にはずし、入浴中の子どもからは目を離さないようにしましょう。

2歳のお誕生日までは、入浴後は浴槽のお湯はぬいておきましょう。



16. 一人で浴室に入れないようにドアにカギなどを付けておきましょう。

掃除をしようとして浴室のドアを開けておいたら、知らないうちに浴室に入り、浴槽をのぞきこんで溺れてしまう事故がおきています。

浴室のドアは開けっ放しにせず、子どもの手の届かない所に外カギをつけて、自由に入出入りできないようにしておきましょう。

